



小玉ひとし議会レポート

発行：小玉仁志 住所：大崎市古川穂波4丁目16-25

協力：小玉ひとし後援会～未来そうぞう堂～

小玉ひとしのスローガン！おおさき より良く！おもしろく！



鉄道も民間が経営しているんだね。維持することは大変

地域や利用者に経営情報を知ってもらうことで、地域交通の大切さを再認識してもらう必要があったんですね。



大崎市議会議員
小玉仁志

生年月日：1984年4月2日生

家族：妻、男子3人

学歴：古川第三小学校、古川中学校、古川高校、東北学院大学 卒業

役職：Officeウラバタケ株式会社
代表取締役/県農業大学校非常勤講師

議員活動も二年目に入り、日頃よりお世話になっております皆様には改めて感謝申し上げます。

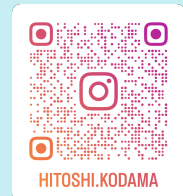
”おおさき より良く！

おもしろく！”

をモットーに更に地域貢献できるよう邁進して参りますので変わらぬご指導宜しくお願い申し上げます。

Instagramにてわかりやすい大崎市の今！を配信中！

ぜひチェックしてください！



以下のQRコードから調査してほしいこと、お悩み等、気軽にご相談ください。



陸羽東線の経営情報開示、地域路線はどうなる？

令和4年7月にJR東日本より経営情報開示があり、赤字路線の対象となった陸羽東線は古川-鳴子温泉間で年間11億5千万円の赤字でした。JRは即時存廃を議論するものではないとのことですが、市は検討会議を立ち上げ、対策案の基礎とする調査報告書を開示しJRとも共有しました。通勤通学、観光利用に欠かせない鉄道の今後、持続可能な地域の交通網実現に向けしっかり向き合うべきです。

* 市の取組や鉄道経営調査取材記事など詳細は右下のInstagramにて随時配信！

おおさきの未来がより明るくなるように！
大崎市議会ではこのようなテーマで質問を行いました。

令和4年
12月定例会

次世代のまちづくり
ヒントは連携に

- ・スポーツ振興策現状と対策
- ・公園、緑地の管理整備状況

令和5年
2月定例会

地域の産業と交通機能
街の未来について

- ・地域の農業を守る戦略は
- ・陸羽東線利活用促進策
- ・公設日本語学校について

令和5年
6月定例会

誰もが自分らしく
生きてゆける街へ

- ・AYA世代がん患者支援体制
- ・創業支援企業誘致について

* AYA世代＝15歳～39歳にがんを罹患した世代

NEWSの比較

～食料自給率から見る大崎耕土の強み～

日本の食糧自給率は、十分な耕作地があるにもかかわらず低い。国外からの輸入に大きく依存していることが大きな理由の一つです。国内コストの問題、高い生産力を誇りながらも諸事情から輸入せざるを得ない食糧がある点はある程度理解できますが、このような状況が久しく続き、当然のことと思われてきました。しかし、ウクライナ危機等の影響から輸入依存の体制が私たちの生活を直撃し、改めてその体制が問われています。食糧のみならず、エネルギー資源、工業部品をも含めたサプライチェーンの問題は社会状況の変化で浮き彫りになった日本の弱点とも言えます。

一方で、大崎地域には世界農業遺産にも認定された豊かな土壌・水資源、恵まれた気候と優れた生産技術があります。食料問題で言えば自国で豊富な食べ物を作ることのできる“生産力”が本市の比較優位と言えます。今こそ、大局的な観点から、自信と誇りを持って日本の食糧基地と位置付けられるような農業支援策・振興策があつてしかるべきと考えます。

*2020年発表時	日本	カナダ	アメリカ	フランス	中国	ドイツ
カロリーベース の食料自給率	38%	266%	132%	125%	97.9%	86%



令和5年4月現在	大崎市人口	大崎市の基幹的農業従事者
大崎市人口	124,776人	4,372人 (3.5%)
生産年齢人口 (*15～64歳)	72,656人	1,284人 (1.7%)

本市の農業従事者
約3,000人が65歳以上

1950年代には
兼業含む国民の48%が農業に関わって
いました。数値で見ても担い手不足。
稼げる、やりがいのある農業振興策
を！



最終発表会の様子

まちづくりのインターンシップ？

NPO法人ドットジェイピーが主催する政策発表会へ向けて、東北学院大学の高橋莉夏さん、高橋瑠夏さんの2名をインターンシップ生として小玉事務所でお迎え、約2ヶ月間地域の調査や各種会議や打ち合わせに同行し議員活動やまちづくりのプロセスを学びました。前期インターンシップ生の酒井陽誠さん並びに後援会メンバーのサポートのもと「若者が集まる街」というテーマの政策提案は、根拠に基づき、若い視点のワクワクする内容でとても立派な内容でした。最終発表会ではおおさき移住支援センターの皆様や後援会メンバーが集まり、意見交換が盛んに行われ、是非とも実現してほしいという声飛び交いました。今後も小玉事務所ではインターンシップ受入れを継続し、若い世代の想いを受け止め、ともに学びながら、おおさをより良くおもしろくする活動を展開してまいります。